

編集室から

知人と世間話をしていたとき、「地球温暖化じゃなく、気候激変化だ」と耳にしました。

先日、能登の自宅周辺で観測史上最大の瞬間降水量を記録。連続雨量120mmで通行止めになる国道は当然遮断。連動して山道の県道も閉鎖。陸の孤島化を防ぐためにも建設され、過日開通したばかりの能越自動車道も、がけ崩れので土砂が道路を覆い、通行止め。全ての通行路が絶たれ、昔通りの陸の孤島になってしまいました。田畑の復旧工事は、未着手です。

幸い、雨が比較的短時間で止んだので、国道が再開。自動車道路もやがて開通しました。60kmほど離れた金沢は何ともありませんでしたので、いわゆるゲリラ豪雨だったのでしょうか。

地球温暖化というと、なんだか気候が穏やかになって暮らしやすくなるイメージ(誤解)がしやすいですが、気候激変化現象と言われれば、ハッとします。ネットで調べてみると、さらに激しく「気候崩壊化」という言葉も使われ始めているようです。

30代半ばの頃、地球環境問題の講演を聞いた時のデモンストレーションが忘れられません。教授は、竿状の棒を両手首で支えました。最初は腕の幅が広く、棒は安定しています。そこで、棒を支えている両手首を近づけると...。かなり狭くなっても棒は水平のまま。ところが、受講生が一端に触れると、大きくふら付きまします。これが気候激変化を示していました。その後、元に戻そうと手首を広げても、一方しか滑らず、完全に元通りの安定状態には復帰しませんでした。これは壊れた気候を戻すことが、如何に困難であるかを示していました。

現象は同じでも、表現される言葉のニュアンスによって、深刻度は異なって受け取れます。言葉に惑わされることなく、現象の本質を見極め続けて行きたいものです。(は)



Chintara

本ニュースにレギュラー執筆
していただいている川畠さん
が「能登の夜市」の姉妹店を
開店されました。

上京された際、ご利用になっ
てみてください。

もちろん、川畠さんご自身も
お店に立っておられます。

日本酒バルChintara

03-6427-8183

17:00~24:00

金曜17:00~28:00日曜祝休

渋谷区道玄坂2-19-3ライオンズマン
ション道玄坂1階

このニュースは、計画に携わる若手の技術
者を育てることを目的に発行を始めました。
その後、計画という仕事の内容や、普段、
計画マンがどのようなことを考えているのか
などに触れて、少しでも業界を知っていただ
ければと考えて編集しています。

2013/07

(株)アスリック

<http://www.neting.or.jp/usric>

〒920-1167

石川県金沢市もりの里1-149-302

電話 076-233-7217

Fax 076-233-7375

Email usric@neting.or.jp

2013/07

(株)アスリック

<http://www.neting.or.jp/usric>

文 月



能登・薬師の里にて
by hama

寄稿『個人事業主となるための心構え』

税理士・河南恵美税理士事務所代表 河南 恵美

皆さんは、「どのような理由で独立開業しますか?」「どうして独立開業をしましたか?」。

これから起業したいと考えていらっしゃる方、すでに個人事業主として活躍の方、独立開業を決めたきっかけは何だったのでしょうか?

- ・夢を実現したかった
- ・欲しいサービスがなかったから一念発起した
- ・自分の好きなことを仕事にした

個人事業の数だけ答えがあるのかもしれない。私はこんな理由で開業しました!という皆様のエピソードをぜひ一度、お聞きしたいです。この手のお話を聞くことが私、とても好きなのです。すいませんお話がそれましたね。

私が、個人事業主となるための大事な心構えは何ですか?と尋ねられたら、「原点と自分軸というものをしっかり持っている人」と答えます。

原点があるとは、自分がどうして起業したのかという強い思いと固い決意があることです。自分がどうして起業したのかが分かっているため、それが原動力となって困難にぶつかっても前に進み続けることができます。自分軸があるとは、自分の判断基準があることです。そのため周囲に何かを言われてもぶれることなく、お店の方向性を自分で決めていく事ができます。この2つがあることで、次から次へとくる経営の困難を乗り切

濱のつばやき 『喜業』

あるとき、フェイスブック上で見かけた一枚の写真。壁に「ありがとう」のひらがなで、「喜」の文字が書かれていた。無断駐車ご遠慮の横に、添えられてあったと言う。粋な飲食店主の姿が浮かんだ。

子供の頃、「個人が、めいめい好きなことをやり始めると、社会として整わない」とどこかで教えられた。「私」を抑えて、「公」に貢献することを善とする価値観が、底流にあった。そんな時代だった。今日では、夢を我慢・諦めるのではなく、熱中できることを持つことが幸せだと、時代も変わってきた。

一方で、社会に異変が起きている。あまりにも猟奇的な事件や身勝手な騒動。これらが、かつて我々の世代を指導・教育してきた世代に目立つのは何故か。戦後の価値観の激変を経験、その後高度成長・バブルで行け行けドンドン。しかし今日まで変わらず「年寄りを大切に。年寄りを助けよう」という社会常識は残っている。前者に調子付き、後者に甘えたか。それは、判らない。

スポーツの団体戦。各自が自らの役割を自覚し、かつチーム全体も見渡して、その瞬間に最高のパフォーマンスで臨む。互いに完全な通信手段がなくとも、「あうん」の呼吸でパスをつなぐ。

ことができ、本来自分のしたかった仕事を続けていくことができるのです。結果、自分のペースで楽しくお店を経営することができるのです。原点と自分軸を持つていること、これが個人事業主になるための大事な心構えだと考えています。

時代が変わり、ビジネスの方法自体が変化してきた気がします。なんだかおかしいな、とお気づきになられている方もいらっしゃるかもしれません。これからは競争の時代から、分かちあうことやシェアしていくという考え方にスライドしていくのではないのでしょうか。シェアをしていくという考え方を基本的に事業展開をしていく個人事業がこれから必要とされるのではないか、と思っております。あなたが起業することでお客様に何をシェアでき、お客様にどんな影響を与えられるのでしょうか。そして迷った時、困難にぶつかった時には、独立開業した時のあなたの思い・原点に戻るといいでしょう。そしてこれから独立開業を考えている方は、しっかり原点と自分軸を持つてから起業することをおすすめします。

お読みいただきありがとうございます。ご縁に感謝です。



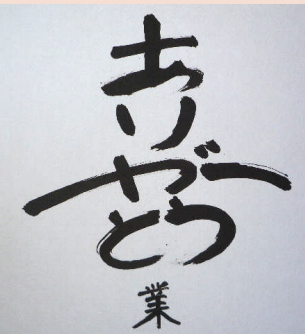
【プロフィール】

(かわみなみ えみ)開業前後のサポートから初めての確定申告まで、起業する個人事業主を応援。気軽にご相談頂くなかから、ご自分のお店を楽しく経営できるようサポート。会計セミナーや個人相談も定期開催中。

人体の細胞もまた、然り。六十兆個の一つ一つが自己保全して活動し、しかも人として全体が完璧に調和して「生きて」いる。改めて考えてみると、人体即宇宙のような強烈な不思議の世界。そこには、個(細胞)と社会(人体)の相克も、矛盾も無い。つまり、個がやりたいうことをやって、即そのまま社会に貢献しているという在り様を実現しているのが、我が人体なのだ。「ありがとう」喜の文字は、個がそれぞれに己の目的を果たす中、自然と周囲・社会も満たされていき、両者に相克や矛盾が無い、そんな状態を表しているのではないか。

新しい社会要請に応える起業が奨励されているが、何かを企て業となす企業の時代は終わった。新しい時代は、ありがとうと喜びを通じて業が成り立つ喜業の時代へと移ろい始めている。

この文字を見て以来、何十年かぶりで、書道具を引っ張り出し、半紙・色紙に何度と無く練習を重ねた。生来、字が下手だそつだ。自分では、それほど悪筆でもないと思っていたが、実際に毛筆で書いてみると、やはりバランスが悪い。ご笑覧を賜るしかない。



河南恵美税理士事務所

<Email> emi8office@gmail.com <Blog> <http://ameblo.jp/zei-joy2013/>

<Facebook> <http://facebook.com/emijoyminami>

浮き草のごとく37 福井県立大学 地域経済研究所 江川 誠一
『会社再建の当事者として～いわゆるマルサです～』

民事再生手続き中の、とある一日のこと。朝一番に税務署が来るため、取締役経理部長である私は早めに出勤する。要件は当社が関与していた某社についての調査。気楽にメールチェックをしていると彼らはやってきた。

約束の1時間前。早すぎる。受付で税務署と名乗っていたので、何の疑いもなく、しかし少し怪訝に思いながら出迎えに行く。

「お約束の時間からまだずいぶん早いですね」「お約束はしていませんが」

彼らも怪訝な顔。約束相手の名前を口にすると、彼らは即座に会得し、次のような決め台詞を吐いた。

「私どもは、いわゆるマルサです」

ちゃーらら ちゃーららら。頭がプスプス言い出した。修羅場は数知れず、しかし、思考停止に陥りかけたのは後にも先にもこの時だけである。

身分証と捜査令状を示される。訳のわからないまま応接室に通す。脱税容疑が、とある人物にかかっており、当社を含むあらゆる関係先に対して、この日この時刻に一斉捜査が入っていることを知る。なるほど、アポなんてとる訳がない。少し状況が理解できてきたので、試しに会話を交わしてみる。

「1時間後に、もともと約束のあった税務署が来るのですが・・・」「あちらはそもそも全く関係ない。我々は強制捜査ですから¹」「当社は現在、民事再生中で、既に裁判所や弁護士によって調査が・・・」「それも関係ないですね」

ちゃーらら ちゃーららら。許可なくパソコンや書類に触らないこと、外出しないことなどが言い渡される。まるで容疑者だ。

4人の査察官のうち西村雅彦似のボスは応接室を占拠し、他の査察官や私を適宜呼び出す。私に十円ほにゃららの査察官が張り付く。宮本信子はいない。

背丈程の大型金庫を開けさせられる。契約書類、出資証券、通帳などが次々と目の前でめくられていく。まずいものは何一つないが、ページをめくる指先が止まるたびにドキッとする。まな板の上の鯉とは、きっとこんなだろうなあって思った。

社長から電話が入って初めて、社長がまだ出勤していないことに気付く。社長宅にも同時刻に別働隊が入ったようだ。あきれるぐらいの非日常。

そんな緊張感のなか、扉付きキャビネットを開いたとたん、十円ほにゃららがのけ反った。目の前には「北斗の拳 全巻」²。彼はそれを1冊ずつ裏返し、中がくり抜かれ何が隠されていないかを探る。映画のワンシーンみたいだ。幸い、会社に私物を置くことを咎める権利は、彼にはない。

夕方には捜査が終わり、西村雅彦似に押印を求められる。段ボール数箱分の書類を押収される。脱税容疑者が著名人だったら、運び出す様子が報道されるところだ。長い一日だった。この日は早めに帰ったような気がする。

1: 税務署で強制調査権を持つのはマルサ(国税局査察官)のみ。約束時間に訪ねてきた税務署職員は、私からの説明を聞くとあっさり帰って行った。

2: コンビニコミック全12巻。1冊が分厚い。

『あまちゃん』
株式会社GARBAGE代表 川島 嘉浩

朝ドラのあまちゃん人気すごいですよねー。うちのお店でもお客様の会話の中でその日の回についての話はもちろん、『じえじえじえ』が至る所から聞こえてきます。流行語大賞は「今でしょ」と「じえじえじえ」の一騎打ちの様相ですね。

かくいう私もあまちゃんを欠かさず見ております。何がそんなに興味を持たせるのかって言われると、奇オクドカンこと宮藤官九郎の脚本であるという事やヒロインの可愛さはもちろんなのですが

渡辺えりこを中心としたわき役陣に毎朝笑わされる

若い世代の故郷と東京に対する思いに共感できる

「地方」と「東京」という構図を暗く捉えていないこと

は日常によくある一コマや人間の感情をやや誇張して表現することで笑わせる「クドカンワールド」の得意芸でもあるんですが、それを表現する役者さんの腕がこれまたすごい。特に海女の仲間である渡辺えり子は卑怯なほどの笑いを提供してくれます。またうちの母親に似ているというのも親近感を感じてしまうんでしょうか。

は私自身が当時持っていた都会への漠然とした憧れや華やかで明るい未来の想像とともに、田舎に対する息が詰まる閉塞感や焦燥感という感情が、主人公の友人でもある「ゆいちゃん」の演技とオーバーラップするところです。彼女は(私は)、夢もなく(と勝手に判断している)生活する周りの大人達や、ここにいたら自分の人生に後悔をするという焦りが、テレビから流れてくる東京という世界をより素敵にしてくれるのです。でもこの感情が今の私をつくりだしたきっかけだった事も確かで、良い悪いという事ではなく生きていくエネルギーとして必要だったんです。

は従来このテーマを映像で表現すると、「老いていく人と街」、「東京という街の孤独」といったように、暗いイメージが付きまとうものですが、このドラマは根底に『人間が本来持つ強さ、優しさ、明るさ』というものがあって、赤字垂れ流しの地方鉄道に勤務する人々は、何とか鉄道を継続させようと日々躍起になりつつも、どこか楽観的で日常生活では酒を飲んで盛り上がり、夕飯の献立で一喜一憂したりするわけです。今も「勝者と敗者」という見方でとらえられがちではありますが、単にそこに生活する人々がどう生きたいのか?という事の違っただけなのだとこのドラマは教えてくれます。

とまあ長ったらしく解説じみたことをしてしまいましたが、掛け値なしにおもしろいという事です。あまちゃんが40代になった時にどう過去を振り返るのが気になるところです。

『富士の国から ~大魔神のたび~ 』

~ 英国の旅 ~ 静岡県職員 溝口 久

翌日は朝食からスタート、イギリス料理というとおおざっぱな味付けそして盛り付けのイメージが強い。さあ、このホテルの朝食はどうだろう。まずは席に案内されコーヒー、紅茶、オレンジジュースからの選択からだ。その後はビュフェとなる。チーズやスモークサーモン、サラダなど冷たいものから、ソーセージ、ベーコン、グリルドトマト、ハッシュドポテト、煮豆などの温かい料理、ハード系、デニッシュなどの各種パンとジャムや蜂蜜など種類も多く大変充実していた。たっぷり一時間かけての朝食となった。「もう昼食はいらないな」旅館に泊まっていた旅ではいつも昼食を抜くことにしている。これで昼を食べようものなら、美味しい夕食に差し障りがあるからだ。

外は少し寒い、日本の3月ぐらいの気候だ。お店のウィンドウに目をやりながら長女が通う大学、芝生広がる広い大学キャンパスではなく大通りに面したビルの中にある。エントランスまでは入れてもそこから先は学生カードをゲートのカードリーダーを通さないと中には入れない。その後、24年ぶりとなる大英博物館に足を運んだ。



正面玄関を入れて直進すると、グレートコートというガラス屋根付きの広い中庭に出る。円形の閲覧室を囲むかたちで、2000年の大改築の際に新たに造られた。グレートコートには、館内インフォメーションやマルチメディアガイドの貸し出しカウンターなど、見学の起点となるポイントが集まっている。お土産ショップやフードコート、カフェもある。

このグレートコートを囲むように展示室が配置されており、正面玄関から左手には、大英博物館で一番人気のロゼッタストーンや古代エジプト、ギリシャ、ローマなどの彫刻ギャラリーがある。また閲覧室を囲む階段を上ったところにレストランがあり、さらに上るとエジプトギャラリーになる。

設計はイギリス建築界の巨匠ノーマン・フォスター。閲覧室以外の建物は撤去して上部をガラスの屋根で覆うという斬新なアイデアだ。これにより導線がわかりやすくなっている。ルーブルのガラスのピラミッドにも同じようなことを感じる。

壁も床も白っぽく、紫外線カットの屋根ガラスからは柔らかな光で降り注がれている。古典建築物の内部でありながらまるで現代建築の空間に仕上げられている。

